柳沢

秀雄

君

作 作 Ж 詇

+

藻も 岩ゎ 万朶一朶の朝霞 の緑春闌けて

若き血潮の踊る時 花皆奇しき香ならずや 憧憬彩と流れては

がれるや

ながれるや

ながれる

な

の前途光 あり

おほ 自ぜん ば ħ

一撃万里す大鵬いちげきばんり おおとり 意気紅霓に似い し立つ可べ つき人皆 たるか の な ₀

翼整装ふ思あ ń

美 0

に

国公

石いしかり

0

浮華軽佻

の風あれて

驕奢の波は狂ふとも

. О

天地広し 裾キ 野の 雲より高きアンデスの 斗をなるの に友よ羊逐へ 翼拡げては と誰か云ふ

北江

ての光清けた

れば

天ヒん に !の森に斧を振れ 漲るアマゾンの

牛の背に散る蔦紅葉 鐘声止みて今暫ししょうせいや いましば 秋は牧場の夕まぐれ 長風夏の雲ゆらぎ 薫る木影に立ちよれ 青葉波よるアカシヤ

> 巨人の叫び茲にあり 世の濁流を叱咤して 声すさまじく吹雪く時 八荒裂けて万籟のはっくわうさばんちい 樹林の暗の深き時じゅりん やみ ふか とき 弦月落ちて白楊のげんげつお

正気溢るる意気の歌せいきある。いきないとなくとう 世は永久に我世なり